

## ■ 事業方針

笑顔があふれるスカウト活動を展開しよう！

『今、私ができること』

昨年度は「より良い試行錯誤を重ねて、それぞれの課題に挑戦しよう！」との方針のもと活動して参りました。この方針の根幹には、スカウトのみならず、私たち指導者や団委員自身が楽しめるプログラムを考え、実行することを目指したいとの思いがあります。この方針は2024年度も引き継がれ、もう一步踏み込んだものへと位置付けたいと考えています。

そして、この事業方針を実行するために、一人ひとりがそれぞれに考え、行動することを表現する言葉として『今、私ができること』を副題としました。

パンデミックの影響を受けた昨年度まで、各団・各隊には知恵を絞り対応をして頂きました。しかし、まだ完全にコロナが終息したというものではありません。これからも必要な対策をとることは大切な行動であると思います。そして、私たちを取り巻く社会環境も著しく変化し、多種多様なニーズに対応しなければならない場面が増えつつあります。

このような課題に対して、私たちがどのように対峙し、打開策につながるアイデアを創出することができるかが今年度(2024年)の大きなテーマとなると考えています。

このテーマに対する有効な手立てとして、現在神奈川連盟が取り組もうとしている【社会連携とダイバーシティー(多様性)を考える】が大きなヒントとなるのではないのでしょうか。例えば、「ワクワク自然体験あそび」のプログラムを通じて、地元の子供たちにボーイスカウトに興味を持ってもらうことができます。また、活動地域内(育成会の中にも)にいる有能な大人の協力を得て、その方々の特技を披露してもらうことにより、従来と異なった活動が展開できます。その結果、スカウトの仲間作りに発展することが期待できるのではと思います。このような行動の連鎖が何らかの隊運営やプログラムにつながることであれば良いという考え方です。

私たちが目指すべき着地点は、考える事からはじめたものが、個々の団に波及し、地区それぞれが独自性を発揮して成果につなげることです。ここでお伝えしたいことは、この着地点の模索は、私たち県連盟関係者も含めて、全ての団・隊及び地区の皆さまと一体となり行動することに他ならないということです。

前年度から神奈川連盟として取り組んでいる「県連ビジョンの策定」は、私たちの活動のよりどころとなるものと考えおり、誰もが理解できる、そしてイメージできる言葉を提案する予定です。

神奈川連盟は今年で創立75周年を迎えます。5年後の80周年の周年記念事業も見据えてスタートします。これまでの足跡をしっかりと振り返り、先人に感謝と敬意を表するとともに、これから踏み出す76年目の道筋を見極めて発展させる決意です。神奈川県連盟を支

える関係者が同じ方向を目指すことができるよう、私たちも一層の努力を重ねて参ります。皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

そして、私たちは2022年に新法人となったことをきっかけに「一般社団法人日本ボーイスカウト神奈川連盟」の計画に継続性を持たせて、単年度計画にとどめず、3か年程度の中期計画を2024年度に策定することもお約束しています。

私たちの理想は、楽しく活動をすることです。その為に各委員会の活動やプログラムを通じて、神奈川連盟が提供するセミナー、研究集会等様々な場面で広くご意見を聴ける仕組みの構築にも取り組み、これからも今まで以上の成果を得られるよう前進して参ります。

神奈川連盟の伝統と従来からの事業方針を踏まえ、より良き試行錯誤を重ねて神奈川連盟がやるべき事業を展開致します。

皆様さまからの変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2024年度神奈川連盟の更なる発展を目指しましょう！

新年度の活動方針を次の2点とします。

#### 《活動方針》

##### 1 スカウティングの質の向上と新規加盟員の獲得を目指します。

- ・「ワクワク自然体験遊び」を柱とした新規加盟員の獲得に向けた展開  
「文部科学省の後援」プログラムとして組織拡充につながる活動を展開する  
新規加盟員の増大を後押しする
- ・RS（ユース）との関わり方の改善を考える（RSハドブック勉強会、フォーラム等）
- ・専門家（医療チームの編成、弁護士の活用、消防署等）への協力体制の構築
- ・県連ホームページの充実 より積極的な情報提供を行う
- ・委員会活動の協業

##### 2 社会環境・社会構造が変化する中、課題抽出力と問題解決力につながるスカウティングを展開します。

- ・中期計画に盛り込むべきプログラムの策定と各プログラムに応じたワーキンググループ（WG）の設定（海外派遣交流プログラム・VS/RSプログラム等）
- ・Adult in Scouting(AIS) ポリシーへの取り組み
- ・持続可能なテーマの創出と対応したアクションを考える
- ・環境への意識：生活環境への貢献 身の回りにある小さな行動
- ・多様性・公平性・包摂性(DE&I)：教育理念としてDE&Iを取り入れて公平な機会のもと多様な人材が互いに尊重し合い力を発揮できる環境を実現する

《成果目標》	2024年度(3月)	2023年度
初期登録者数	6113名	6337名
新規加盟者数	550名以上	457名
合計	6663名以上	6794名

以上

《活動方針》	《施策》	
	委員会	内容
1. スカウティングの質の向上と新規加盟員の獲得を目指します。	総務委員会	①利便性を高めるためにスカウト用品販売を行う。 ②効率的な地区運営を目指すDX改革に向け、デジタルツール導入の事例紹介や勉強会を委員会内で開催する。
	組織戦略委員会	①「わくわく自然体験あそび」のサポートを継続して行う。 ②外部(加盟員)向け情報発信機能については、当面「やまゆり」の編集を継続する。 ③また、「やまゆり」の内容をHPで公開し、「プッシュ式情報発信」でその旨広く周知する。この新たな仕組みとなる「プッシュ式情報発信」の活用方法を検討する。
	進歩促進委員会	①「活動と進歩に関する研究会」を通じて活動と進歩制度の相関の理解を深め、活動の活性化を目指す。 ②「プロジェクト発表会」を通じて、ベンチャースカウト活動における自己の目標達成の手段の多様性を理解し、隼・富士章への挑戦意欲向上につなげる。 ③神奈川連盟スカウトの進級状況について傾向分析を行い、神奈川連盟のウィークポイントや特徴・特性を探る。 ④県内の進歩委員会関連の事業案内や、社会的な記念日など、活動のアイデアにつなげる情報をHPで発信する。
	スカウト活動支援委員会	①BS向けの「神奈川一番チャレンジ」プログラムに県下のBS全班を参加させるための方策を検討する。 ②「スカウトの日」「JOTI/JOTA」「BSA行事仲介」の各事業について、県下各団の参加率の向上を目指し、わかりやすく情報提供を行う。 ③県連としての海外派遣実施について、いままでの検討事項をまとめる。 ④他委員会との横断的な活動により、進歩進級への促進や技能向上、進歩進級科目との関連性や事業への参加によるメリットを整理し、指導者向けのガイダンスを行う。 ⑤進歩進級、技能向上へつながる事業開催や各地区への普及促進。 ⑥CS隊向けの『パインウッドダービー神奈川大会』を実施し、工作や競争することにより『楽しいスカウティング』の機会を提供する。
	SfH・安全委員会	①「セーフ・フロム・ハーム」通報窓口の課題洗い出しを行い、運用改善を図り専門性の高い対応チームを編成し、迅速に対応する。 ②「セーフ・フロム・ハーム」の実践研修を充実させ、スカウト運動の質の向上に繋げる。 ③県下医療機関と連携した医療チームの編成を検討する。 ④安全ハンドブックに沿った担当者研修の要項作成。防災教育の推進を図る。

《活動方針》	《施策》	
	委員会	内容
	指導者養成委員会	<p>施策①:9/21～23の開催に向け、研修会の位置づけや展開手法、プログラム等に関し企画を立案中。Pointは“指導者にとっての「楽しさ」をどの様に捉えるか。ただ単に、「楽しい」研修会の提供にとどまらず、研修会で得た成果をスカウティングに於ける自身の役務に活かすことで、“指導者としての真の楽しさ”を感じるようにすべきと考える。</p> <p>施策②:施策①とは異なり、こちらは単純に“参加者自身が楽しめる”イベントと考える。しかしながら、県連開催事業としては、単なる“飲み会”ではなく、指導者間のネットワーク構築に役立つ物としたい。当初は研修所履修者を対象者とするが、他の対象者向けに開催する別枠のリユニオンも考えられる。</p> <p>施策③:「Award」や「academy」など、RSに関する日連の新施策が出されているが、方向性(狙い)が今ひとつ理解できていない。これを明確にした上で、Roverringに対する県連としてのConceptを打ち出す事が肝要と考える。</p> <p>※新任RS隊長の就任条件となっている「RS隊長研究会」の見直しが急務と考える。</p>
	ユースネットワーク委員会	<p>改定RS隊長ハンドブック勉強会へのRS参画。 RSのニーズの掘り起こし・就職研修会に代わる新たなRS支援事業の検討。 委員会の支援力強化(委員のRS部門の理解促進・役務分掌の見直しと遂行)。</p>
	財務委員会	<p>①年々厳しくなる県連一般会計の今後5年間のシミュレーションを行い、理事会にて「今後の財政基盤に関する提言」を行う。</p> <p>②県連としてスカウト用品販売事業を行う際の会計処理、税務処理についてまとめる。</p>
	トレーニングチーム	<p>①「野外活動訓練」の展開にあたっては、2泊3日の期間中いつでも入り自由で、トレーニングチーム員に限らずその道の知見のある方(団体)を講師に迎え、毎年参加したいと思えるように参加者同士が繋がることを目指す。また、野外活動に知見のある団体と協働して地域と繋がりながら展開することを検討する。</p>
	HP運営整備特別委員会	<p>①加盟員へのより積極的な情報の提供を行えるHP運営方法を検討する。</p> <p>②県HPに地区・団情報を発信してもらうよう働きかける。</p> <p>③理事会議事録を掲載する。</p> <p>④プライバシーポリシーを掲載する。</p> <p>⑤スカウト用品販売にHPとして協力できる内容を検討する。</p> <p>⑥各運営委員会のHP利活用について提案する。</p>

《活動方針》	《施策》	
	委員会	内容
	表彰DB等作成 特別委員会	日本連盟や神奈川連盟等への表彰に関する加盟員の情報を適正に管理し、名誉会議等に適切に推薦できる仕組みの構築を行う。
2. 社会環境・社会構造が変化中、課題抽出力と問題解決力につながるスカウティングを展開します。	総務委員会	①中期計画、ビジョン策定を行う。 ②ビジョン策定に関する地区とのコミュニケーションを行う。
	組織戦略委員会	神奈川の企業に限定せずに幅広くSDG's及び環境問題に取り組む企業との連携を図ることからはじめ、将来に渡り神奈川連盟のサポーターとして連携出来る体制を構築する。
	進歩促進委員会	①外部各団体と県連との付き合いについて検討する(プログラム開発面) ②関東ブロックの各県連との共催プログラムの検討。可能性の調査を行う。 ③各地区共通の進歩・技能向上プログラムの研究
	スカウト活動支援委員会	①新しい進歩課目(特に防災教育、環境教育、人権教育)について、指導者への意識づけを行う。 ②過去(先人方の資料等)、現在(メディアが伝える情勢等)、未来(スカウトのニーズ等)の一部をピックアップしてHPで発信し、未来思考の活動へつなげる。
	SFH・安全委員会	①「セーフ・フロム・ハーム」通報相談窓口業務に外部の有識者、専門家配置を検討する。 ②「ぼうさいこくたい」「全国防災キャラバン」への取り組みを県下加盟員にアピールする。
	指導者養成委員会	何よりも、「AISに対する理解」がまだまだ不十分な状況だと感じている。「スカウト運動における成人に関する世界指針」と、これを元に構成された「日本連盟AIS方針 三部資料」(「スカウト運動における成人に関する方針」、「指導者に関する指針」、「指導者訓練体系」)を手元に置くところから始め、更にこれらを研究する場を提供することが県連としての責務と考える。 ※前述各資料は、計108ページとなる。日連hpからDownloadできるが、冊子を作成し活用してもよいのではないかと。
	ユースネットワーク委員会	①ユースにおいて多様性と包摂性を検討する。 ②RSネットワークの強化(SNSツールの見直し等)、進歩改定に伴うVSフォーラムの再検討を行う。
	財務委員会	①県連財政の安定化は県連運営の要となる。長期的な計画を立て将来に備える体制を構築する。 ②支出の低減をはかりながら収入増に結びつく案を提言する。

《活動方針》	《施策》	
	委員会	内容
	トレーニング チーム	①2024年度はスカウトコース4回のうち2回を県内開催とし、その検証を踏まえ、今後の方針を検討する。 ②準指導要員制度の周知とその活用について、引き続き検討する。